空き家利活用コンテスト2022 優秀賞

非住宅部門

事例 02

タルマーリー智頭店

建物とともにかつてのにぎわいも再生
カフェ＆宿で観光と日常をつなぐ

カフェスペース（写真上）とエントランス（写真下）。何度も塗り直したという壁の色、タイル張り、照明や電気スイッチカバーといった備品で1970年代を意識した雰囲気に統一されている。想定外に床下から現れた石積みの井戸は、ガラスのテーブルを載せてカフェの特等席に。

「まさかここがカフェになるなんて」。かつては編み物教室としてにぎわっていたが、空き家となっていた建物の大変身に、近隣住民はそう感動したという。智頭町那岐にある野生酵母パン&ビールの店「タルマーリー」のオーナーが一目見て気に入り、カフェと一棟貸しの宿を融合した2号店を構想。費用がかさむことは分かっていたが、「このままでは朽ちて無くなる。再び人が集う場にしたい」という強い思いにより改修がスタートした。

地域住民が慣れ親しんでいる黄色い外観は残し、窓はフェンスや障子を外して透明ガラスに交換。通りかかる人々にカフェの様子が伝わりやすく、かつ店内が明るく開放的になった。宿泊スペースは、快適かつ豊かに滞在できるよう素材や住設機器類を吟味、断熱性能も向上。内装にこだわり、アンティークの調度品や扉などを国内外から取り寄せたほか、前建物の古材やタイルを活用し各所に散りばめている。

「人々に愛された建築は記憶に残っている。それを丁寧に再生することで、必ず地域の価値が見直される」と受賞者。再び役目を与えられた建物は、智頭宿の新たなスポットとして観光と地域の日常をつないでいる。

カフェの奥にある、1日1組限定のホテル「やどり木の家」のリビング。左官仕上げの壁を、オーナー自らが緑色のペンキを塗って仕上げたという。食事はもちろん、ワークスペースとして利用することもできる。

もともとは和室だった宿の寝室。天井・壁・床は杉板を張り、吹き抜けの梁にはシャンデリア、壁にはステンドグラスも。落ち着いた雰囲気に心が寛ぐ。

（写真上・右下）細かいタイル細工が美しい洗面所と浴室。宿で過ごす時間が愛おしくなる。
（写真左下）「暮らすように過ごしてほしい」と、コンパクトながら設備充実のキッチンを設置。

［ DATA ］

名前	タルマーリー智頭店
所在地	八頭郡智頭町智頭594
構造	木造平屋建て
築年月	昭和22年
改修後の用途	カフェ＋宿
改修期間	2020年6月～2022年3月
改修費用	約20,000,000円（物件取得費含む）